

小樽市では今年度より「(仮称)第7次小樽市総合計画」を策定することとしておりますが、将来のまちづくりビジョンにおいても、この視点は欠かせないものであります。

ついては、総合戦略を改訂し、産業政策や社会資本整備を積極的に推進するとともに、(仮称)第7次小樽市総合計画においても、小樽市の基幹産業である観光振興や新たな観光・物流拠点としての港湾振興を反映させた小樽のまちづくりビジョンを策定されますよう要望いたします。

### 3 小樽駅前地区市街地の整備

JR小樽駅前は、現在、車と人とが混在する危険な状態となつており、歩車分離等の安全対策が求められております。

さらに、未耐震化問題など、駅前全体のサービスが低下しており、都市機能を高める整備が必要であると考えております。

小樽市が発表した「耐震診断結果」では、駅前第一ビルは震度6強以上の地震で倒壊、又は崩壊する危険性が高

いとされています。

駅前第一ビルは、市営住宅が併設されているほか、市民や観光客等が多く利用しており、一刻も早い整備が必要であります。

ついては、中心市街地活性化基本計画を早期に策定し、駅前広場と交通アクセス拠点を含めた駅前第一ビルの一体的な整備を積極的に推進するよう要望いたします。



## 2 地域公共交通網形成計画の策定について

公共交通事業を取り巻く環境が厳しさを増している中、特に市内路線バス輸送人員の減少により、サービス水準の低下が懸念されております。小樽市の活力を維持・強化するには、コンパクトなまちづくりと連携した、地域公共交通ネットワークの構築に向けて小樽市が主導的に対応するとともに、適宜情報提供いただくよう要望いたします。

ついては、市民や通勤者の利便性が損なわれないよう、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に向けて小樽市が主導的に対応するとともに、適宜情報提供いただくよう要望いたします。

これまで議論を積み重ねてきた小樽港の有効活用に資する改訂を早急に進めるべきであると考えます。

喫緊の港湾整備を停滞させることは国内外競争力のさらなる低下、港湾関連業者の小樽撤退が想定されるなど、小樽港の発展がますます立ち行かなくなることは明らかであります。

ついては、小樽港港湾計画の早期改訂、国直轄整備事業の積極的な予算獲得による整備を推進するとともに、第3号ふ頭を「みなと観光」に位置付け、港の整備に必要な予算措置を講じるよう、次の事項について要望いたします。

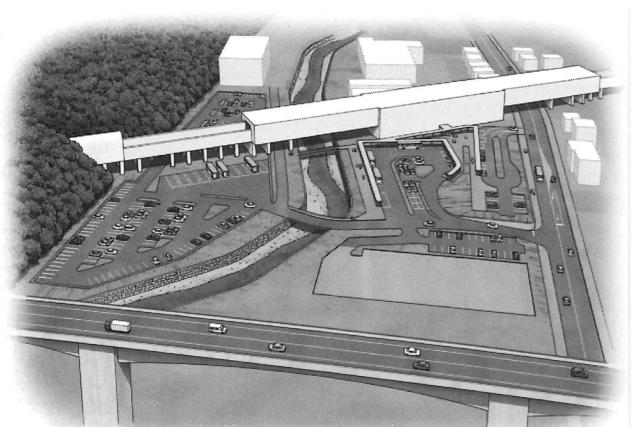
(1) 改訂小樽港港湾計画作業を早期再開していただきたい。

(2) 改訂小樽港港湾計画に「第3号ふ頭及び周辺再開発計画」を反映させ、早期整備を実施していただきたい。

(3) 大型クルーズ客船対応岸壁の更なる整備等、国直轄事業については積極的な予算獲得により、着実な整備を実施していただきたい。

## 6 北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺地区の整備について

北海道新幹線新小樽(仮称)駅は、駅舎周辺のまちづくりや小樽駅との交通アクセスについても、より具体的に



この図面はイメージ図であり、確定したものではありません。今後関係機関との協議で、駅舎及び鉄道施設、駅前広場等は変更する可能性があります。



## 7 南小樽駅の駅舎改築及び周辺地区整備について

つ戦略的な取組が必要であります。

ついては、新小樽(仮称)駅と小樽駅を結ぶ二次交通、「道の駅」などの観光中継基地、定住人口増加策、他地域からの利用者取込み策等、新小樽(仮称)駅の有効活用を目指すよう、次の事項について要望いたします。

(1) 具体的な取組みを推進する官民連携組織の早期設置と設置時期を示していただきたい。

(2) 新小樽(仮称)駅の優位性を確保するため、周辺地区的宅地等の開発や駅前駐車場の整備による利便性の向上などを、新たな民間投資を生む有効かつ効果的な取組みを積極的に行っていたい。



## 8 産婦人科医師の確保について

当所としては、利便性の向上と観光客の利用増など「人・もの・情報」が交流するにぎわいの拠点駅として整備を進める必要があると考えます。

ついては、駅舎の改築と周辺地区の整備を推進するよう要望いたします。



当所としては、利便性の向上と観光客の利用増など「人・もの・情報」が交流するにぎわいの拠点駅として整備を進める必要があると考えます。

ついては、駅舎の改築と周辺地区の整備を推進するよう要望いたします。

現在、市内で出産が可能な産婦人科は1診療所のみであり、妊婦や家族が安心できる状況にあるとは言えません。長期にわたり市内で安心して出産できないことは、「産み育てる力」が低下し、なお一層の人口減少や少子化を助長することは明らかであります。

ついては、産婦人科の拡充等を早急に対応していただきたく次の事項について要望いたします。

(1) 小樽市が率先して、新たな産婦人科診療所の誘致や小樽市立病院に産婦人科を設置するなど積極的かつ早急な対応を行っていただきたい。

(2) 「地域周産期母子医療センター」の早期再開について、北海道に早急な対応を要請いただきたい。

## 5 改訂小樽港港湾計画策定の早期再開と小樽港の積極的な整備推進について

小樽港は、道央圏の拠点港としてさまざまな重要な役割を担つております。今後も、計画的な整備が必要であります。

当所では、第3号ふ頭基部及び周辺地域を「みなと観光」や「市民の憩いの場」の拠点と位置付け、南運河、北運河、旧国鉄手宮線を連動させた新たな観光拠点・新たな活力を創造するための魅力発信とシビック・プライドの醸成に努めています。

同校は、道内で唯一海上技術を学ぶことができる学校であります。

北海道の物流は、海上輸送のウエイトが高く、将来を担う人材を地元で育成・養成し、「次世代につなげていく」ことは非常に重要であります。

また、同校が廃止されると、船員を志望する子ども達の進路選択を狭めただけでなく、小樽の船員養成の歴史が途絶え、まちにとつて極めて大きな影響があります。

ついては、同校が耐震改修が困難という理由で廃止されることのないよう、引き続き情報共有・連携に努め存続に向けて積極的に対応されますよう要望いたします。